

課外講座—ライフプランニング講座 A「社会人の話を聴いて私の未来を切り拓く」

時 間：150分×1回  
 形 式：ワークショップ（ミニ講義＋社会人の話を聴く＋社会人を囲んで質疑応答）  
 対象者：キャリアデザインに関心を持ち始めた1～3年生  
 講 師：新井浩子（早稲田大学ジェンダー研究所招聘研究員）  
 キャリアモデル：3名  
 学習支援者：ファシリテーター3名、グラフィックレコーダー1名  
 実施校：聖心女子大学、静岡大学  
 レベル：初級

(1) 目的

キャリアデザインに関心を持ち始めた1～3年生を対象に、社会人の体験談を聞き、人生を長期的に見据え自立した働き方や生き方の方向性をつかむ機会をワークショップ形式で提供する。

本格的な職業選択や就活の前に、自立した大人として生きるイメージをつかむことをめざす。3名のキャリアモデルの生き方から、人生を切り拓く力としての社会や人と関わる力の大切さに気づき、自身の将来展望を具体化する。

(2) プログラムのポイント（想定される効果）

- ・事前学習、社会人ゲストのキャリアトーク、学生同士のグループワーク、講師によるレクチャーを組み合わせた双方向型形式で実施する。
- ・通常授業から離れたカジュアルな雰囲気の中で、多様な考えに触れ、自分の気持ちや考えを整理し、キャリアを具体的に考える機会を提供しライフプランを作るための土台づくりをめざす。その後の大学生活にける主体的な学びや活動へつなげることが期待される。

(3) プログラム

テーマ	内容・ながれ
事前課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題シート「これからの私を話してみよう」を記入</li> <li>・講座に持参</li> </ul>
第1部：社会の構造を知る (50分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイスブレイク</li> <li>・事前課題をグループでシェアして自己紹介</li> <li>・ミニ講義で、キャリアデザインの基礎、生き方や働き方の変化等をデータを示して解説。展示パネル「なるほどジェンダー」、月刊『We learn』（(公財) 日本女性学習財団）も教材として使用</li> </ul>
第2部：キャリアモデルの体験談（100分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアモデルにキャリアヒストリー、障壁を乗り越えた経験について聴く。気づいたことや質問を記録するため「キャリアモデルトーク感想シート」を使用</li> <li>・3グループに分かれキャリアモデルを囲んで質疑応答。各グループに一人ファシリテーターが参加</li> <li>・グラフィックレコードを見ながら講座をふり返る</li> <li>・事後アンケートを記入</li> <li>・修了証を授与して終了。事後アンケートを回収</li> </ul>

#### (4) 実施上の留意点

##### ◆聖心女子大学

キャリアセンター等から学生の傾向として指摘された「失敗することを怖がる」「自信がない」「意見が言いにくい」「親の影響が強い」を変えるきっかけを提供することを目標とした。具体的には、①女性の就業や性別役割分業の実態と課題をデータ等で紹介、②20代OG、30代後半育児・転職経験がある、といった多様な女性をキャリアモデルとして選定し、挫折を乗り越えた経験を話してもらい、③グループ毎にファシリテーターを配置し全ての学生が発言できるよう支援した。

##### ◆静岡大学

①共学の国立総合大学であり対象が女性に限定されない・理系学生がいる、②7割が地元で就職、③文系理系でキャンパスが分かれており交流が少ない、という大学の特徴に留意し、プログラム構成と学習支援方法は継続しつつ、①男性にとっての性別役割分業の問題やキャリアデザインの必要性を強調。②大学・地域・年齢等が学生と近い社会人（20代文系学部OB、30代前半理系大学院OG、20代都内私大卒静岡勤務女性）をキャリアモデルに選定。③学部・学年・性別などが混合したグループを編成しファシリテーターを配置した。

#### (5) 参加者の感想

##### ◆聖心女子大学

- ・全く働き方や考え方の異なる三方に聞け、とても新しい考えを持つことができた。
- ・人生の中での仕事の意味を考えることができた。
- ・自分の人生について考え、悩み、本当に進みたい方向を探したいと思った。
- ・一度就職したとしてもそこに縛られる必要はないということ。 など

##### ◆静岡大学

- ・仕事を嫌なことと考えず、人生の延長として楽しむこと。就職活動では取り繕わずに自分に合った企業に採用してもらうことが大事。転職はマイナスではない。
- ・その時は失敗だったり絶望状態だったとしても、長い目で見て、自分の気持ち次第で失敗ではないと思えるかもしれないということが学びだった。
- ・現在は点でしかない。現時点では嫌なことでも未来はわからないということを学んだ。 など

以上